

あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'97 2月号



▲厚木市中依知 梅光寺跡にて

民俗探訪会の活動を紹介します

4月よりスタートした民俗探訪会の今年度の活動テーマは「八王子道を歩く」です。八王子道とは東海道平塚宿と甲州街道八王子宿を結ぶ街道でした。活動テーマとして旧道を選んだのには次の理由があります。①旧道沿いはすでに近世に形成されていた古い集落が多いことから、社寺や石仏などが豊富に存在している。②旧道を軸にした文化交流を考えるのにふさわしい。八王子道でいえば、須賀の魚売りが歩いた道であることや人形芝居、相州達磨などが挙げられる。③一本の道を歩くことで民俗文化の広がりや変化を捉えられる。④旧道を歩き継ぐという旅の要素を持たせることで参加意欲を高める。

幸い好評をいただいて、毎回30名程度の会員が参加する大所帯の会になっています。原則として解散場所が次回の集合地になるので毎回歩き継いでいけば平塚海岸から八王子まで歩き通したことになります。現在12名の方に完歩賞の可能性があります。歩いてるより話してる時間が多いのもこの会の特徴で、何人かの会員にはあらかじめ頼んでおいて玄人はだしの解説をしてもらっています。ときには様々な意見が出て収拾がつかなくなりますが、この意見の交換の中から発見することも大です。

民俗探訪会は民俗文化を足元から見つめ、その広がりと変化を知るためにまず自分の足で歩き、地域の文化を再認識していくことを目指している会です。4月からは新規会員を募集し、また新たなテーマで歩くことになります。参加希望の方は「あなたと博物館3月号」を見て申込んでください。

寒風吹きすさぶなか、会員たちは今ごろ、相模原市上溝あたりを元気に歩いていることでしょう。

まんがの話-寄贈品コーナー「鍬物語」展

2月1日(土)~2月27日(木)にちなんで

マンガってなんですか？決まってるじゃないか、漫画だろう？なんて言っているようじゃ、まだまだ平塚の地に根を生やしているとはいえませんよ。お百姓さんに尋ねてみてください。「マンガか、そりゃあマンガックワだ。昔やあ、みんなマンガーで田をうなったもんだ」「千歯こきのこともマンガって言いますよね？」「なんだ、そりゃあ」「ほら、稻をこいたり麦をこいたりする、刃がいっぱい……」「稻こきだ。稻こきマンガ、麦こきマンガとも言ってな、麦用のマンガは稻用より刃の間が広かった。種粉を探るにはしばらく使ったな」というようにもし平塚方言辞典を作ったとしたら「マンガ」あるいは「マンガー」の事項には、マンガックワと稻こき・麦こきの2種の農具の記載がなければならないのです。さらに、平塚にはコマンガー、フリマンガと呼ばれる農具もあり、マンガの仲間は4種類を数えることになります。それではいったい、これらの農具に共通点はあるのか？また、なにゆえマンガと呼ばれるのでしょうか？

馬鍬 試みに広辞苑でマンガを引くと「漫画」の他に「馬鍬：マグワの訛」と載っているので、マグワを引くと「マグワ：わが国在来の農具の一。牛馬にひかせて土を碎いたりならしたりするに用いる。長さ約1メートルの横木に約20セントメートルの鉄製の歯10本内外を植え、これに鳥居形の柄をつけたもの。まんが。」とあります。呼び名についてはウマグワ→マグワ→マンガになったことが容易に想像されます。田のシロカキに用いる道具で、一般には農具でマンガといえばこの“馬鍬”を指します。ですが、平塚では馬鍬をマンガと呼ぶことは稀で、たんにシロカキ機などと呼んでいました。マンガの仲間が4種類もあるのに、なぜ馬鍬はマンガの仲間入りができたのでしょうか？

明治40年の統計書から県内の牛馬耕の状況を郡別に見ると、牛馬耕を導入している田地面積の割合は、橋樹郡の51パーセントに比べ、わが中郡は0.03パーセントに過ぎず、畠では中郡はゼロです。さらに耕作用の牛馬頭数は三浦郡の1541に比し、中郡はわずかに馬が25頭だけと、明治期の平塚市域では農耕用の牛馬は皆無に等しい状況であったことが分かります。牛馬耕の本格的な導入は、暗渠排水が整備されドブッ田が乾田化するまで待たねばならず、大正末から徐々に普及し始めたものの、多くの農家で使うようになったのは戦後からでした。田での牛馬耕はシロカキの他に、スキを使う田起しがありましたが、70代以上の人には若い頃には手で（マンガーや鍬で）田をうなったものだと語ります。シロカキについても鍬で行っていた長い歴史に比べれば、牛馬に引かせるシロカキはほんの一時期に過ぎません。このように、平塚市で馬鍬をマンガと呼ばなかった理由は、牛馬耕の導入が遅れたためといってよいと思います。ただし、市内には170基程の馬頭観音が建てられているように、馬とのつきあいは古くからありました。馬は農耕用ではなく、駄馬として、また堆肥を作るために飼われていたのでした。

マンガー 刃が4本に分かれた鍬を指し、マンガックワともいいます。主に田の耕起に使い、芋堀にも用いました。現在も畠で使われています。県内での呼称はマンノウと呼ぶところが多いものの、相模川以東にはシホングワなど刃の数を示す呼称、県西南部にマンガーが分布しています。

コマンガー クマンガーとも呼びます。デッキブラシのような形状の柄と台に鉄製の釘状の刃：

をつけたもので、畠の土を碎いて均したり、麦の刈株をひっこぬくのに使いました。呼称は県東部にムツバなど刃の数を示すものとコマンノウ、相模川以西はコマンガーの分布域です。

フリマンガ ヨコップリともいい、形状は馬鍬によく似ています。水田裏作に小麦を作るとき、鍬でうなった後の土塊をこれで碎きました。



稻コキ・麦コキマンガ 稲や麦の穂を刃の間に通して、穀粒を落とす脱穀用具です。この後足踏み式の脱穀機に替わりました。呼称はカナゴキが県東部、県央はセンバ、西南部はマンガ・マンノー地帯です。



マンガという呼称 以上4種のマンガ類は県内では相模川以西の南部に濃密に分布しており、さらにマンノウの分布とも重なる場合があります。マンノウとマンガの呼称には大いに関連がありそうです。また、馬鍬は県内でも牛馬耕が盛んだった地域ではマンガの呼称が与えられています。センバコキをマンガと呼ぶのが最大の謎ですが、これは馬鍬をひっくり返した形に似ているからというちょっと信じがたい説もあります。

マンガの“ガ”は、“グワ”が縮まった音で、市内にはマンガ以外にもオンガ、トンガといった鍬があります。マンガ類の共通点は、いずれも鉄製の刃（昔は竹製だったものもある）が数本ついた農具ということになりますが、これが解決の糸口となるかは分かりません。ただ、万能・万石（千石）・千歯・万力など作業効率が良い新種（といっても近世）の道具に大きな数を名称としてつけた傾向があります。こう考えるとマンガの呼称には、馬と万の2系統があるといえるかもしれません。

マンガレー マンガの呼称を問題にするのは、ただ種類が多いからだけではありません。実はかつて7月の半ば、田植えが済み、畠仕事も一段落した頃にマンガレー、正しくはマンガ洗いという農休日がムラごとに出来ました。マンガ洗いという呼称の通り、農繁期の間活躍したマンガを洗って並べ御馳走を供えて感謝する行事です。さて、ここで問題になるのがどのマンガを対象にしたかということで、家や地域によって万能・コマンガ・千歯とばらつきがあります。万能としたら田うないが済んだ祝いとなり時期的には遅く、コマンガならちょうど寸前に麦の刈株をあげるのでグッドタイミングなのですがお祝いする程の農具であるかどうか、千歯なら麦の脱穀祝いということになります。足柄上郡には12月にもマンガアレーをする所があり、その際には千歯に供えました。市内のマンガレーは特定のマンガだけでなく、鍬などにもお供えした家が多かったようです。しかし、戦後はほとんどやられなくなり、伝承はかなり薄らいでしまっています。

マンガレーは川崎市や足柄上下郡にもあり、馬鍬に感謝する祝いとしていた場合が多いです。平塚市の場合、マンガレーという呼称自体は馬耕先進地帯から入ってきたとしても、実際に行事の対象とした農具は一つに限定していないのではないかと思います。

さらに、田植え後にやはりムラ単位で出されるノアカリの休日との関連も考えてみたい問題です。

鍬物語展 様々な種類の鍬を展示し、その用途や使用法を紹介している今回の寄贈品コーナーにこじつけて、マンガの話を展開してみました。

<農具図はすべて『明治三八、九年農具一覧』に図解>
(平塚市博物館 昭和60年)による>

『学校と博物館の連携』－7年の歩み－

■3学期になると子どもたちの声が館内に響き渡り賑やかになってきます。社会科の「くらしのうつりかわり：むかししらべ」の学習に小学校3年生が先生方に引率され博物館に見学に訪れるからです。1月になってすでに市内の5校の団体見学がありました。また、プラネタリウムの観覧には、市外の小学校も含め7校の5・6年生がやってきました。平成7年度は市内の延べ26校、4,934名の小学生が団体見学やプラネタリウムの観覧等で博物館を利用しました。

■ちょっと堅い話になりますが、平成元年の学習指導要領の改訂により、従来からの高等学校に加えて、小・中学校の社会科の歴史学習においても、博物館の活用をはかることが明記されました。それを受け、学校側が教育機関としての博物館を認識しはじめ、学校教育の一環として活用するようにならざることもあるでしょう。その結果全国的に学校で博物館を利用するケースが増えてきました。それに対応するために博物館側でも受け入れ等「学校との連携」について研究や実践がされるようになりました。

■さて、当博物館の「学校との連携」について見てみましょう。

今から7年前に学校から一人の教員が博物館職員として学芸係に配属されました。当時は、博物館に関しては全くの素人？が「学校と博物館の連携をはかる」という大きな課題をかかえて、未知の世界へ第一歩を踏み入れたのでした。博物館には学校教育部門が新設され、教員を待ち受けていたのです。博物館の仕事は、「誰が・何を・いつまでにする」というような指針はほとんどありません。ですから「自分で自分がやらなければならないこと・やりたいこと」を見つけ出し市民のために実践しなければならないのです。自分が次年度にやることは、前年度の2月の会議で決定されるのです。

学校から来た職員のいくつかの実践をあげてみましょう。

「学校との連携」では、何と言っても博物館を利用する側の先生方が博物館を、あるいは博物館の利用方法・活用方法をどれだけ知っているかが一つの鍵になります。そこで、学校の先生方を対象とした「博物館利

用の手引き」が発行され、市内の小・中学校の全教職員に配布されました。その内容は次の通りです。

- ・博物館はこんなしごとをしています。
- ・博物館を案内しましょう。
- ・博物館を利用してみましょう。
- ・利用のときには、こんな手続きを。

から成り立った小冊子です。博物館の様子・仕事内容・活用方法を具体的に伝えました。

児童向けには、展示見学がより充実するように低学年・3年生・6年生向けのワークシートを作成し、団体見学の際に配布したり、展示解説も試みました。

■では、学校では博物館をどのように活用しているでしょう。

- ・団体見学（2年生の生活科や3・4・6年生の社会科の授業の一環としての団体見学・遠足での見学）
- ・プラネタリウムの観覧（5・6年生）
- ・博物館資料の貸し出し（授業で活用）
- ・学芸員の派遣（土器作り・星座観察・校内の植物観察・野外観察・学校研究等の講師）
- ・各分野に関する質問（研究授業の時に多い）

■しかし、学校週5日制に向かって、学校が益々多忙化し、校外学習の一環としての博物館を活用の機会が減ってしまうのではないかと危惧する昨今です。また、生涯教育の重要性が叫ばれている今日、児童・生徒が博物館等に小さい頃から足を運ぶことでその素地が培われると思います。学校や家庭でも是非そうしたきっかけを作ってあげて欲しいものです。

■最後に、博物館に行くには時間がかかるとお悩みの先生方に朗報があります。博物館が学校から遠く、時間的にあるいは交通が不便な学校には、「移動博物館」が考えられます。学校は博物館資料を展示する場所を提供するだけで、資料の運搬から、展示まで学芸員が行います。それらに係わる諸経費も博物館が負担します。一度ご相談下さい。



「見学に訪れた吉沢小学校4年生の質問に答える学芸員」'96.10.29.

2月の行事予定

1	土	天体観察会「スターウオッティング調査」
2	日	民俗探訪会「八王子道を歩くVI」 (相模原市田名・上溝)
5	金	地質調査会(館内)
7	日	天体観察会「ヘールボップ彗星の観察」
8	土	○漂着物を拾う会 平塚の空襲と戦災を記録する会 古文書講読会
9	日	こども観察会「水鳥の観察」(花水川) 地質調査会(野外)
15	土	地質調査会 平塚の空襲と戦災を記録する会 古文書講読会
16	日	古代遺跡を探す会
19	水	裏打ちの会
20	木	石仏を調べる会(下島)
22	土	古文書講読会
23	日	相模川の生き立ちを探る会 「経ヶ岳に登る」(経ヶ岳) ○体験学習「日時計を作ろう」(博物館)
28	金	月末休館日

3月の行事予定

2	日	民俗探訪会「八王子道を歩く」(相模原市)
5	水	地質調査会
8	土	○漂着物を拾う会(平塚海岸) 古文書講読会 平塚の空襲と戦災を記録する会
9	日	地質調査会 ○自然観察会「早春の雑木林を訪ねて」(吉沢) ○星を見る会「日食を見よう」 天体観察会「日食の観測」
13	木	石仏を調べる会(大島)
15	土	地質調査会(館内) 平塚の空襲と戦災を記録する会
16	日	古代遺跡を探す会
19	水	裏打ちの会
22	土	古文書講読会
23	日	相模川の生き立ちを探る会(秦野市)
27	木	石仏を調べる会(館内)
28	金	○星を見る会「ヘールボップ彗星を見よう」
29	土	天体観察会「まとめ」
31	月	月末休館日

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

●寄贈品コーナー

「鍬物語～くわものがたり～」

「鍬は百姓の刀である」といわれたように、農具の要でした。平塚で使われた様々な種類の鍬の用途を紹介します。

期間：2月1日(土)～2月27日(木)

「天文部門」

期間：3月1日(土)～3月30日(日)

●プラネタリウム

「日食と月食」

期間：1月11日(土)～3月9日(日)

投影日時：土・日曜日の11:00と14:00

観覧料：100円

参加者募集

●体験学習

「日時計を作ろう」

日時計を作り、太陽の動きを調べます。

日時：2月23日(日) 10:00～13:00

場所：博物館科学教室

材料費：100円

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、博物館「日時計を作ろう」係へ

〆切：2月8日(土)

●自然観察会

「早春の雑木林を訪ねて」

春浅い吉沢の丘陵地に、ウグイスカグラやセリバオウレンなどの花を訪ねます。

日時：3月9日(日) 13:00～16:00

場所：吉沢(霧降の滝付近)

内容：早春に咲く花の観察

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、博物館「自然観察会」係へ

〆切：2月25日(火)

●漂着物を拾う会

海岸に打ち上げられた動植物や人工物を拾い調べます

日時：2月8日(土) 9:30～11:00

場所：平塚海岸(花水川橋平塚側記念碑前集合)

参加：自由

「あなたと博物館」

定期講読のお知らせ

平塚市博物館の情報紙「あなたと博物館」をご希望の方には直接郵送しています。お申込は、住所・氏名・電話番号・ご希望の号('〇年〇月号～'〇年〇月号)をお書きの上、80円切手を必要枚数同封して博物館までお送りください。「あなたと博物館」は臨時増刊号を含め、年13回の発行を予定しています。

あなたと博物館

21巻11号 還240号 03000 発行

平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41

TEL:0463(33)5111

FAX:0463(31)3949